

1989年出土の木簡



(出石)

跡周辺は、円山川河口から  
関連の深い遺跡である。遺  
石 約五〇〇m 隔つてあるが、  
た。谷南側の袴狭遺跡とは  
その西側約二〇〇〇mを対  
象として全面調査を実施し  
た。上下ともに折れている断片である。文意も明確でなく、五文字の  
存在が明らかただけである。

(渡辺  
昇)

## 兵庫・砂入遺跡

すなり

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 所在地           | 兵庫県出石郡出石町袴狭字持網 |
| 2 調査期間          | 一九九〇年(平2)一月~三月 |
| 3 発掘機関          | 兵庫県教育委員会       |
| 4 調査担当者         | 渡辺 昇・久保弘幸      |
| 5 遺跡の種類         | 祭祀遺跡           |
| 6 遺跡の年代         | 八九世紀           |
| 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要 |                |

遺跡は、出石町と豊岡市の境界近くに位置し、北側を流れる小野川の旧河道もしくはその支流の河道に相当するものと思われる。調査は一九八八年にも行われ、二点の木簡と五点の墨書き土器が出土している。今回は

約二一km上流になるが、標高六~八mと低く、湿地化しており、調査の結果でも常に河川の氾濫にあっていたことが窺われる。今回の調査では、木簡は一点だけである。また未整理段階ではあるが墨書き土器も一点しか出土していない。木簡が一点のみで硯などの遺物も出土していないことは、遺跡の性格を示すものかと思われる。

今年度調査による遺構は、大別して二面あり、上層では自然流路横に祭祀に伴う道を作っている。幅三~五mの粗朶敷きの道で、道上に人形、斎車を埋納した土坑を有している。下層では自然の流路を使って祭祀を行っており、大量の人形、馬形、斎車をはじめ刀形・刀子形・鋤形・剣形・舟形などの祭祀遺物が約二万点以上出土している。木製遺物の多さに比べて木簡が少く、出土遺構が上層の道状遺構横の自然流路であることから、今回調査した遺構に伴うものではないかもしれない。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) □右□禁□

(117) × 28 × 3 081

存在が明らかただけである。